

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

| | |
|---------|----------------------------|
| 上位の施策名称 | 施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり |
|---------|----------------------------|

1. 事務事業の目的・概要

| | | | |
|----------|-------------|------|--------------|
| 事務事業担当課長 | 農産園芸課長 長野正己 | 電話番号 | 0852-22-5123 |
|----------|-------------|------|--------------|

| | | | |
|---------|--|--|--|
| 事務事業の名称 | 土壌環境対策事業 | | |
| 目的 | (1) 対象 | 農用地の土壌の汚染防止等に関する法律に基づく農用地土壌汚染対策地域の指定解除地域 | |
| | (2) 意図 | H26年度まで指定地域であったが、現在は指定解除されている地域の土壌汚染の状況を把握するとともに、カドミウム等特定有害物質による農作物汚染を防止し、安全な農産物生産を確保する。 | |
| 事業概要 | 「休廃止鉱山対策事業」として、土壌中のヒ素や玄米中のカドミウム量が高いため1976年に「農用地土壌汚染対策地域」に指定していた津和野町の笹ヶ谷鉱山下流域について、一定期間以上基準値を下回ったとして、農用地土壌汚染防止法に基づき平成27年1月9日に指定を解除した。今後は指定解除地域を対象として、引き続き農作物の生育状況や農作物、土壌及び農業用水に含まれる特定有害物質の量を把握するために、「土壌汚染防止対策解除地域調査」を実施する。 | | |

2. 成果参考指標

| 成果参考指標名等 | | 年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 単位 |
|----------|------|--------------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| 1 | 指標名 | 指定解除地域内で生産される米の食品衛生法に基づくカドミウム含有基準値未満 | 目標値 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | % |
| | 式・定義 | (調査点数の内カドミウム含有基準値未満の地点/調査点数) × 100 | 取組目標値 | | | | | |
| | | | 実績値 | 100.0 | 100.0 | | | |
| | | | 達成率 | - | 100.0 | - | - | % |
| 2 | 指標名 | | 目標値 | | | | | |
| | 式・定義 | | 取組目標値 | | | | | |
| | | | 実績値 | | | | | |
| | | | 達成率 | - | - | - | - | % |

3. 事業費

| | 前年度実績 | 今年度計画 |
|-------------|-------|-------|
| 事業費(b) (千円) | 2,936 | 3,255 |
| うち一般財源 (千円) | 1,185 | 1,199 |

4. 改善策の実施状況

| | |
|---------------------|----------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ③改善策を検討中 |
|---------------------|----------|

5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基づいた現状)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 指定解除地域を対象に農作物の生育状況や農作物、土壌及び農業用水に含まれる特定有害物質の量を把握するために、「土壌汚染防止対策解除地域調査」を実施した。 平成27年度に「水稲中ヒ素濃度低減対策事業」を、平成28年度に「コメ中ヒ素低減のための水管理試験事業」を消費安全対策交付金を活用して、本県における水稲栽培においてヒ素の吸収を極力低減するための技術検証を行った。 精米中のヒ素濃度を安定して抑える栽培技術の蓄積を早期に図っていくため、水稲栽培におけるヒ素の時期別吸収量を明らかにし、さらに、吸収抑制に効果的な節水管理方法について検討した。 |
|---|

6. 成果があったこと (改善されたこと)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 平成元年の対策工事完了後、土壌汚染対策地域の指定要件を超える数値は検出されていないことから、安全な農産物生産が確保できている。 平成27年度からの「水稲中ヒ素濃度低減対策事業」の1年目の結果からは、玄米中、わら中の総ヒ素の低減対策には中干しが重要であることが再認識された。 平成28年度、2年目の結果からは、玄米中、わら中の総ヒ素低減対策には出穂前後3週間の節水が最も有効であることが認識された。 平成28年度からの「コメ中ヒ素低減対策のための水管理実証試験」の1年目の結果からは、玄米の無機ヒ素濃度は間断かん水により低くなることが認識され、コシヒカリに比べコシヒカリ環1号でわらのカドミウム、マンガン濃度が低くなることが認識された。 |
|--|

7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

| |
|--|
| <p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状では安全な農作物が生産されているが、平成27年度は調査地点4箇所中1箇所の用水でヒ素濃度が基準値をやや上回り、平成28年度は調査地点3箇所いずれも基準値を下回った。これらは気象要因等年次変動で起こり得ることであり、引き続き経過観察が必要と思われた。 玄米中のヒ素濃度が、調査地点3箇所中1箇所で国際基準値(コーデックス委員会設定)をやや上回った。 |
| <p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度の用水でヒ素濃度が基準値を上回った原因としては、本坑から流れる川と他から流れる川の合流地点において、それぞれから流れる水量が季節によって変化し、時期的にヒ素濃度が高くなる可能性が考えられる。懸念された本坑の亀裂が発生した可能性はないと判断された。 平成28年度の玄米でヒ素濃度が高くなった原因としては、客土が少なくももとの土壌中濃度が高いことが考えられ、それが耕耘作業や水管理の影響により、高くなった可能性が考えられる。 |
| <p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な調査により土壌・用水・農作物の状況変化を継続的に把握し、経過を観察する。 調査は場の水管理等の状況確認と生産者への指導の徹底を行う。 |

8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 定期的な調査により土壌状況等変化を継続的に把握し、地元関係者及び町への調査結果報告と定期的な意見交換を行い、指定解除地域の現状・課題について共有化を図る。 適切な水管理により、安全な農産物生産を確保を図る。 |
|--|